

方言

万葉集の時代の言葉も残る
島ことばのあれこれ

動植物の世界では、海に囲まれた島は外来種の影響を受けにくいので、昔の姿のまま今も生息している種があります。言語の世界も同様で、古い時代の言葉遣いが今も利用されていたり、島独特の変化を遂げたりすることがあります。日本の方言を、音の成り立ちやアクセント、文法の要素などに基づいて、地域で区分したものを全日本方言区画図といいます。八丈島周辺で使われている八丈方言は、日本の中でも独自性をもつ言語のひとつと考えられており、長く研究が行われています。また、小笠原諸島は開拓によって八丈島の影響を受けつつも、欧米やハワイの言葉が接触することで混ざり合い、独自の言語文化を形成しました。

全日本方言区画図



出典：平山輝男編集代表（1992）『現代日本方言大辞典1』



北部伊豆諸島方言は、伊豆諸島のうち御蔵島以北で話される方言です。八丈方言との違いについて例を挙げると、北部伊豆諸島方言は明瞭なアクセントが使われるのに対して、八丈方言では橋と箸を区別しないような平坦なアクセントが用いられます。さらに細かくみれば、各島、各集落でも違いが認められますが、背景には漂着した人や流人から異文化を吸収するなど、島独特の社会環境が影響していると考えられます。

北部伊豆諸島の島ことば

八丈島の 島ことば

かまる

※「におう」の意。

例 このくさやは
かまるわのー

ねつごきや

※「小さい」の意。

例 五郎は2歳ごんて
まだねつごきや

えーす

※「魚：メジナ」の意。

例 えーすの

ひよーら

※「昼飯」の意。

例 12時でひよーらだら

さすみ(刺身)は
うんまきやのー

めなだ

※「なみだ」の意。

例 悲しけんて
めなだがでたらー

ぼーきや

※「大きい」の意。

例 太郎は花子より
ぼーきや

ユネスコ(※)が世界の言語の中で「消滅の危機にある言語・方言」について2009(平成21)年に調査結果を公表しました。その調査結果の中で、「八丈語は奄美語などと並んで世界消滅危機言語のひとつ」として挙げられました。

八丈語とは、全日本方言区画図上で八丈島・青ヶ島で用いられている言葉で、日本では方言として扱われていますが、ユネスコの国際的な基準に照らすと、独立した言語に相当すると考えられています。八丈語には、万葉集が編纂された時代に東国地方(関東地方とその周辺地域)で使われていた言葉と同じ文法構造や単語が残っています。他の方言と交わることが少なかったことが、独自性を保つことができた要因と考えられます。八丈島では島ことばを後世に受け継ぐために、「八丈・島ことばかるた」を制作したり学校教育・社会教育に取り入れたりしています。

※国際連合教育科学文化機関

小笠原諸島の 島ことば

小笠原諸島に初めて定住したのは欧米やハワイなどから来た人々で、日本語を話す人が定住するようになったのは1870年代頃からといわれています。八丈島からの移住者が多かったため、戦前までは主に八丈語が使われていたと考えられています。やがて、八丈語、英語、ハワイ語などが混ざり合って独自の進化を遂げました。

日本の領有権が認められるようになって約140年と日が浅く、他の方言に比べ小笠原諸島の島ことばの研究は多いとはいえませんが、多くの民族と文化が融合して生まれた珍しい島ことばは貴重な方言といえるかもしれません。